

関係各位

長崎西高校男子バスケットボール部  
監督 後藤慶太

## 平成18年度国民体育大会第25回九州ブロック大会（報告）

1 期日	8月19日(土)	8月20日(日)	
2 場所	熊本県熊本市	熊本工業高校体育館	
3 結果	2勝1敗（予選リーグ敗退）本大会出場ならず		
予選リーグ	対 沖縄県	(12-25)	
8月19日	<b>67</b>	(21-24)	<b>114</b>
		(17-28)	
		(17-37)	

沖縄県は、北中城、興南高校を主体に、美来工科、糸満高校のメンバー構成です。

身長、体格の面でのハンディをどのように克服するかが鍵でしたが、2Q以外は本県の持ち味が出せず、沖縄県のシュート力に屈した形となりました。シュート(=フィニッシュ)の差が得点差になったゲームでした。次の宮崎戦へ気持ちが切り換えられるかです。

予選リーグ	対 宮崎県	(13-20)	
8月19日	<b>82</b>	(23-23)	<b>80</b>
		(25-22)	
		(21-15)	

2戦目は、宮崎県です。延岡学園に小林高校のメンバーを補強していますが、セネガル人留学生は出場していません。

このゲームは、長崎らしさが前面に出た試合で走ることができました。ゲームは、宮崎県が終始リードするもの。しつこいディフェンスで長崎がぐらいついていく展開です。ディフェンスは長崎西の赤瀬、土屋の粘り、オフェンスは日大の西山、岩下の1on1またそれを演出したのは日大の朝長、海星の川上らの強気のリードでした。選手それぞれが互いの持ち味を出し、長崎県チームが一つになった試合です。要所では、日大の羽田、長崎東の豊村らの好ディフェンスが光りました。残り2分でとうとう同点に追いつき、その後岩下、川上落ちてフリースローを決めました。2年生の味志、平木(長崎西)吉田、松尾(海星)らも第2Qに出場し、持ち味を発揮しプレイしました。主力である3年生の体力温存させるいい仕事してくれました。正に全員で勝ちとった勝利です。

予選リーグ	対 佐賀県	(25-27)	
8月22日	<b>101</b>	(31-16)	<b>89</b>
		(29-20)	
		(16-27)	

結果	優勝	福岡県	
	2位	沖縄県	3位 熊本県・長崎県

最終戦は佐賀です。本国体出場の可能性は厳しいものがありますが、今年のチームの目標である走るバスケットボールに徹底することを目標にゲームに臨みました。佐賀の外角シュートに苦しむものの、2Qの厳しいディフェンスからきっかけを掴み、勝負を決めました。4Qに気のゆるみから追い上げられる場面もありましたが、全員出場の全員得点で最終戦を飾ることができました。

本国体への出場はなりませんでしたが、宮崎県に勝利したことは大きかったのではないのでしょうか。しかし、あくまでも国体は出場権獲得です。そのために、選抜チームとしてのチーム作り(約束事)などをしっかりとしたスタンスが必要です。能力には限界がありますので、やはり組織力のあるバスケットボールを目指さなくてはなりません。今後の課題をしっかりと抑えて国体には取り組まないと出場権の獲得はできません。

追伸 成年男子が、ブロックを突破し本国体出場(ブロック突破は、私が現役の北海道国体(平成1)と福岡国体(平成2))以来です。

本校卒業生の根岸 豪(明治大3年)も気持ちの入ったスピードあるプレイを見せてくれました。

## 4 備考

ウインターカップ県予選会

9月23日(土)、24日(日) 諫早市飯盛町体育館 県高総体ベスト8以上が参加